

Interview

# 口腔がん撲滅委員会が日本縦継プロジェクト

口腔がん撲滅委員会は、各地域の実情に応じて普及啓発をするために47都道府県を巡回するプロジェクトを進めている。地域の『口腔がん』を考えるシンポジウムで、既に北日本編として5月から8月にかけて北海道、青森、山形、宮城、秋田、岩手、福島、新潟の8道県で開催。11月から熊本を皮切りに西日本編がスタートする。柴原孝彦代表理事に北日本編を終えての感触や、口腔がん撲滅に向けての取り組みについて聞いた。

——口腔がん撲滅委員会はいつごろから活動しているのですか。

柴原 委員会では2014年から口腔がん撲滅に向けた運動を推進し、今年2月に一般社団法人の正式団体として設立登記しました。

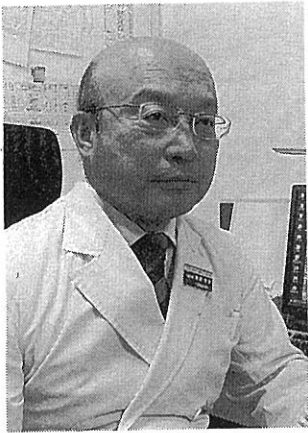
活動目的には①日本における口腔がん検診における口腔がん死亡率(46.1%)を欧米並み(80%)に引き上げ、②2013(米国並み)を上回る③日本全国の歯科

本における口腔がん検診の普及を促進し、④日本の全国各地における歯科医療の病院連携の実現を図る。結果、歯科医療の価値を欧米並みに向上させる一環として、日本を縦断してシンポジウムをし

常からの歯科医院における粘膜検診を含む口腔検診の恒常化の推進を目指しています。——北日本編として、8道県での開催を終えて、共通の課題などはありましたか。

## 各地域の実情に応じて啓発

柴原孝彦氏



常からの歯科医院における粘膜検診を含む口腔検診の恒常化の推進を目指しています。——北日本編として、8道県での開催を終えて、共通の課題などはありましたか。

柴原 今回のシンポジウムでは開業医の先生にアピールした訳ですが、本来の主訴に対する治療で忙しい面もあり、一番時間をかけて患者さんの口を診ているのは歯科衛生士という意見が多く、第一発見者に歯科衛生士がなり得るとの考え

柴原 今回のシンポジウムでは開業医の先生にアピールした訳ですが、本来の主訴に対する治療で忙しい面もあり、一番時間をかけて患者さんの口を診ているのは歯科衛生士という意見が多く、第一発見者に歯科衛生士がなり得るとの考え

り、県内の各基幹病院が、歯科医師会も含めて協力できた。周術期の口腔管理なども注目されていますので、歯科衛生士の役割はさらに増していくと思います。——最後に西日本編のスケジュールを教えてください。

柴原 熊本(11月12日)を皮切りに、佐賀(12月3日)、福岡(来年1月21日・28日)、岡山(2月4日)、山口(2月25日)、沖縄(3月4日)、宮崎(6月11日)、鹿児島(3月25日)、大分(4月8日)、長崎(4月15日)、広島(4月22日)の11県12地区で行います。

各地域とも検診事業の必要性は感じていますが、医療の均点化に課題があるところ、歯科医師会の協力に課題のあるところ、歯科医

師会が取り組みたくても資金的に難しいところ、それぞれの課題は少しずつ違い、それを肌で感じられたのは大きいと思います。各県とも熱心に取り組んでいました。特に印象に残ったのは福島県で、奥羽大学の高田訓教授が中心とな

柴原 「口腔がんってこ

柴原 「口腔がんってこ